

世代を超えたあらゆる住民が活用できる地域密着型の活動拠点の創出、社会資源の創出

市町村名：当別町

町人口：18,497人（H23.4.1現在）

地域概況： 当別町は札幌市と境界を接し、札幌都心部から約15～25kmに位置している。管内有数の米の生産量を誇っている。また、切り花の生産が盛んで、道内屈指の生産額となっている。町内には北海道医療大学もある。風景が酷似していると言われるスウェーデン王国・レクサンド市との姉妹都市提携をメインとし、集合住宅地“スウェーデンヒルズ”は観光地としても有名である。

1 取組のきっかけ・経過

平成20年度、共生のまちづくりを視点とした子どもから高齢者、障がい児・者を含むあらゆる福祉ニーズに対応するため、共生型事業拠点を当別町に2か所設立した。

○ 地域福祉ターミナル

そのうちの一つである「当別町共生型地域福祉ターミナル」は、平成18年度に策定された当別町地域福祉計画の重点施策に位置づけた「地域福祉ターミナルの機能・仕組み作り」に基づき設立された。当別町地域福祉計画では、「地域福祉ターミナル」を「当別町のあらゆる福祉情報の集積地であることを意味し、ここにある地域福祉ネットワークにその情報がスムーズに配信され、またその情報に対する反応が新たな情報として集積している場所となること」と定義しており、こうした役割を担う。

○ 地域オープンサロン

もうひとつの拠点である当別町共生型地域オープンサロンは、障がいを持つ方の就労ニーズに基づき、あらゆる住民が集える活動場所として町の中心に設置した。

【工夫したポイント等】

- ・ 地域福祉ターミナルについては、「地域福祉計画」の策定が一番大きな契機となる。
- ・ 地域オープンサロンは、利用する障がい児・者と住民が相互にメリットのある関係づくりを大切にしている。（「されるだけでも、するだけでもない、お互いさまの関係」）
- ・ 両拠点は連動し、事業展開されている。

2 事業（活動）内容

○ 地域福祉ターミナル

当別町社会福祉協議会ボランティアセンターと北海道医療大学ボランティアセンターを一元化した地域包括的ボランティアセンターの設置、高齢者のボランティア活動と介護予防を組み合わせた高齢者ボランティア支援、ボランティア活動と地域簡易通貨システムを組み合わせた地域活性化事業の3つが大きな柱となっている。こうした事業のほかに、地域住民が福祉を身近に感じることができるよう、自由に活用できる多目的スペース及び会議スペースを設置している。

●ごちゃまぜサロン（地域サロン）

恒常的に集い出会うきっかけ作りとして、平成21年度よりスタート。

【大事にしていること】

- * できることもできないこともみんなで話し合い一緒に作っていくサロン
- * 世代を超えた交流ができる ごちゃまぜサロン

【参加者対象者】

外出の機会の少ない高齢者（基本的に自力で来られる方）

* 現在登録者 21名（前年度比 +6名）

【実施日時】

毎月1回 水曜日 10:00～14:00

前年度は8回/年 不定期の開催から、12回/年と回数を増やし定例で開催中。

【実施場所】

地域福祉ターミナル

【実施内容】

毎回回の内容を話し合いで決め、当日の実施に向けて参加者も含めて準備をする。



●とうべつのじまんシンポジウム

～町内で様々な活動をされている方達の実践報告！！～

- せわやき隊のメンバーで子育て支援などで大活躍中の宮本さん・今井さんによるスイートエプロンと手品の披露。
 - ・自分達の活動を披露する機会がもらえてとても嬉しい。
 - ・楽しんでもらった笑顔が活動の意欲に繋がっている。
- 北海道医療大学ボランティアネットワークの学生と地域スタッフの活動報告

地域スタッフの声)

- ・地方にいる親族に「当別は何があるの？」と聞かれるが、パーソナルアシスタントサービスに関わらせていただき、当別には福祉があるのよ！と大きな声で言えるような自信がついたように思う。
- ・若い方と関わる中で、福祉に対する意欲がすごく感じられ、最近脳が錆ついていただけ、良い刺激を受けている。
- ・若い方が、福祉に興味を持っているのはとても心強く、高齢者世代としてとても頼もしく思っている。
- ・学生さんとは孫ほどの年齢差で、どんなやり取りができるか心配だったが、実際に話してみると何の違和感もなく、優しい笑顔につられて楽しい時間をいただいている。これからもこのような素敵で楽しい語り合いの時間を過ごしていきたい。
- ・これから、若い方の感性やエネルギーとパーソナル仲間の人生経験や知恵を使って当別町の福祉に興味を持っていただき発展できるように頑張りたいと思う。



●地域共生型パーソナルアシスタント

制度外のサービスに応えるための住民が住民をサポートする仕組み作り

- 当別町オリジナルの養成講座を開催

(27. 5時間の講習+実習)

- 養成講座受講者 41名

- ・20代の学生から60代の団塊の世代まで
- ・41名中14名が男性

※うち11名は60歳以上！

講習：子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず、幅広い範囲の知識を身につけられる内容。

実習：これから実際に関わるであろう方たちと触れ、体験し、講義内容の理解が一段と増した様子。

→地域で活躍する場を望む住民の方の意識の高さを実感！

→27名が会員登録（女性19名/男性8名）



● 井戸端会議

『縦ではなく、横のつながりを大切に仲間作り・まちづくりを目指したささやかな宴の開催』

■ 第1回井戸端会議

平成22年5月22日(土) 17:30～
参加者：31名(男性：13名/女性 18名)
(パーソナルアシスタント会員 14名
学生 5名 / その他 12名)

■ 第2回井戸端会議

平成22年11月6日(土) 17:00～
参加者：51名(男性20名/女性：31名)
(パーソナルアシスタント会員 10名
学生 21名 / その他 20名)

地域の方が指導をし、学生がそれに習って調理をする姿は親子の様。「すごい！」と感心する学生に、満面の笑みで「無駄に年取ってないよ～！」と応える地域の方。なんとも微笑ましい光景があちらこちらで見られてい

る。
おいしい手料理を囲んで歌あり、踊りあり、笑いあり、涙あり・・・おなかいっぱい、胸いっぱい。

→当別おふくろの味として、道外からのお客さんをお迎えする際には得意の手料理を振舞っていただくなど、活動の広がりが見られている。



○ 地域オープンサロン

① 障がい者の就労の拠点

喫茶スペースや駄菓子コーナーを設置。障がい児・者やボランティア、子どもから高齢者まで世代を超え創作活動や就労訓練を行う。

② 地域住民と取り組む「一日コックさん事業」

地域住民や町内の飲食店が障がい児・者と共にランチを提供する。

③ 高齢者ボランティアの介護予防事業

駄菓子コーナーの店番、売り場づくりや季節の装飾づくりを通し、高齢者と子どもたちとの交流を生み、世代間交流の場となっている。

④ 商工会と連携した地元食材の魅力発信

当別町商工会小規模事業者新事業全国展開支援事業における当別町ご当地グルメ開発プロジェクトにより当別産の米粉を100%使用した「当別米粉焼きドーナツ」を開発。

⑤ 地域交流を生むイベントの開催

様々な団体が企画運営するイベントの開催の場となっている。



一日コックさん事業。地域住民とスタッフが力を合わせてお客様へランチを振る舞う。コックさんが料理を作り、スタッフは盛り付けや配膳を担当。それぞれ役割分担された仕事をこなす中で、自然と交流も生まれてくる。



午後の時間帯で高齢者ボランティアさんは活躍している。子どもたちがルールを学びながら、安心して過ごせるような場所を、Gardenの一員として一緒に考え、作っている。

【わがまちの工夫（特徴）・売りのポイント】

○ 地域福祉ターミナル

- ・ 当別町社会福祉協議会の職員と NPO 法人当別町青少年活動センターゆうゆう 24 の職員が同じ事務所で業務に当たることは画期的な取り組みであると考える。
- ・ 毎月 1 千人以上の来訪者が様々な活動を行っており、世代を超えた交流が営まれている。
- ・ ボランティアポイントシステムの導入。
* ボランティアポイントシステム＝当別町商工会が実施している既存のポイントカードシステム（アウルカード）と連携し、ボランティア活動 30 分ごとに 1 ポイントが付与される仕組み。
⇒ポイントを得られる仕組みが、活動者を社会的に評価する仕組みとなると共に、地域の活性化に寄与することを期待している。
- ・ 大学などの研究機関・情勢当局・地域福祉団体からなる当別町共生型外部検討委員会を設置し、共生型事業の効果と課題、今後の在り方について分析する機会を設けている。

○ 地域オープンサロン

- ・ 障がいの種別、世代を超えた交流の場となっている。
- ・ 当別町の商店街の活性化につなげる狙いがある。

3 成果・効果

○ 地域福祉ターミナル

昨年度ボランティアセンターに登録する地域ボランティアを対象としたアンケート調査では、「ターミナルができて良かった」と肯定的な回答が 8 割、とりわけ、当別町ボランティアセンターが事務所を移転したことにより、「ボランティアセンターを身近に感じるようになり行きやすくなった」との回答が 6 割、次いで「当別町の福祉活動が活性化された」「当別町のボランティア活動が活性化された」との回答が 4 割と多く、地域福祉ターミナルの設置の効果の大きさと当別町の地域福祉推進に寄与したことが示唆される。

また、ボランティア活動に対する意識変革についての調査結果も、「福祉に対する理解の深まり」「福祉活動に対する興味関心の深まり」が共に 8 割を超え、さらには、「障がいのある人に対する理解の深まり、「高齢者に対する理解の深まり」については 9 割近くの肯定的な回答が得られた。

ボランティアセンターに登録する 65 歳以上の方を対象として実施したアンケート結果からも、「ボランティア活動する以前との変化について、すべてにおいて肯定的な回答を得られた。

自由記載や聞き取り調査からも、笑顔と一緒に活動先での嬉しいエピソードがボランティアさんから語られ、とても大きな成果が生まれている。

「商工会」が実施している「既存」のポイントカードシステムとの連携ということにも、大きな意味があり、地域住民が福祉を知るきっかけとなったり、ターミナルに寄ってポイントをもらって帰るといった流れが出来たことで、町のメインストリートを入が歩くようになり、ポイントカードを通じて地域が循環し、地域に還元される仕組みとなっている。

○ 地域オープンサロン

一日コックさん事業においては、現在 30 以上の団体の登録があり、一ヶ月平均 8~10 回程度の参加がある。多い日には一日に 50 人以上の客数があり、地域住民に定着してきている。

当別米粉焼きドーナツの販売を開始した当時には、商品が北海道のグルメ情報誌に掲載された。

サロンで働く障がいを持つ方は、商品が売れるその様子を見ることによりやりがいや充実感を感じ、意欲の向上につながっている。



様々なメディアにより、当別町を超え、全道・全国の人々へ情報発信されている。

4 課題・これから

○ 地域福祉ターミナル

「地域住民の交流の場、支え合いの拠点としてターミナルが機能するよう事業を進めます」という事業目標を掲げ、平成 18 年度に策定された当別町地域福祉計画の重点施策に位置付けられた「地域福祉ターミナル」構想のもと、当別町のあらゆる福祉情報の集積地であることを意味し、ここにある地域福祉ネットワークにその情報がスムーズに発信され、またその情報に対する反応が新たな情報として集積していく場所となることを目指す。

そして、子どもも高齢者も障がい児・者も、年齢や障がい種別を超えた「地域住民同士の交流」を図り、「困った時はお互いさま」で支え合える仕組み作りを目指し、機能を果たしていくことを目指す。

○ 地域オープンサロン

地域住民の認知度をさらに上げることにより、利用の機会の増加を目指す。

また、小学生の放課後の過ごし場の場としても定着してきたことから、子どもの遊び・学びの場としての機能の充実を図る等、課題解決に際しては地域住民と課題を共有し解決していくことにより、「共に」つくりあげているという認識を持つ。

さらに、子どもから高齢者、障がい種別を超えた地域住民の行き交う温かい場所であり、また、“新しい風”の吹き込む場であるよう活動の充実を目指している。

問合せ先：当別町福祉部福祉課障がいサービス係

〒061-0234 当別町西町 32 番地 2 当別町総合保健福祉センター「ゆとろ」
TEL (0133) 25-2665 FAX (0133) 25-5018

当別町共生型地域福祉ターミナル～みんなのうた～

〒061-0223 当別町弥生 1091-6
TEL (0133) 25-5137 FAX (0133) 25-5140

当別町共生型地域オープンサロン Garden

〒061-0223 当別町弥生 51 番地 38
TEL&FAX (0133) 22-0775